

臨床心理関連行政論

選択 2単位

村上 香奈

1. 授業の概要(ねらい)

心理臨床家は職務を遂行する上で、判断に迷ったり、葛藤を抱くことがある。その例として、秘密保持を前提に相談を受けたが自傷・他害の恐れが出てきた場合や、確証はないが虐待の疑いがある場合などが挙げられる。このような時、心理臨床家はどのように行動するべきなのだろうか。その基準を示してくれるのが、法であり、倫理である。このように心理臨床家が会おう出来事の一つひとつが、法律や倫理と関係しているのである。

心理臨床家は、様々な分野で職務を担っているため、多様な法律の知識、求められる倫理を学ぶ必要がある。これらは、覚えること、考え理解することによって身につくものである。また、法は社会の状況によって改正されることもある。心理臨床家として現場で専門性を発揮しつづけるためには、高い意識を持ち、社会の動きに敏感になることも求められる。

2. 授業の到達目標

- 1)心理臨床家が職務を遂行する上で関わる分野の法律を説明できる
- 2)心理臨床家の職業倫理について説明できる
- 3)具体的な事例に対して、どのように行動するべきかを説明できる

3. 成績評価の方法および基準

期末試験50% 小テスト50%(小テストは第3回～第12回の授業内で実施する)

4. 教科書・参考文献

教科書

野島一彦・繁樹算男 監修

元永拓郎 編 公認心理師の基礎と実践23

関係行政論 遠見書房

参考文献

金沢吉展 臨床心理学の倫理を学ぶ 東京大学出版

5. 準備学修の内容

教科書の該当箇所を読み、自分の理解したことと理解できなかったこと(疑問点)をまとめて授業に臨むこと。

6. その他履修上の注意事項

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション 法律と倫理とは何かについて学ぶ
- 【第2回】 公認心理師法と日本臨床心理士会倫理綱領を学ぶ
- 【第3回】 秘密保持について学ぶ
- 【第4回】 保健医療分野に関する法律・制度(1)主に精神科医療について学ぶ
- 【第5回】 保健医療分野に関する法律・制度(2)地域保健医療について学ぶ
- 【第6回】 福祉分野に関する法律・制度(1)児童福祉について学ぶ
- 【第7回】 福祉分野に関する法律・制度(2)障害者・障害児福祉について学ぶ
- 【第8回】 福祉分野に関する法律・制度(3)高齢者福祉について学ぶ
- 【第9回】 教育分野に関する法律・制度について学ぶ
- 【第10回】 司法犯罪分野に関する法律・制度(1)刑事・家事について学ぶ
- 【第11回】 司法犯罪分野に関する法律・制度(2)少年非行について学ぶ
- 【第12回】 産業・労働分野に関する法律・制度について学ぶ
- 【第13回】 研究倫理について学ぶ
- 【第14回】 事例検討 判断が難しい事例について考える
- 【第15回】 まとめと展望